

2025年度 第3回CTY-FM放送番組審議会 議事録

【開催日時】 2026年1月27日(火)15:10～

【会場】 CTY 四日市本町8-2 3階役員会議室

【出席者】(敬称略)

株式会社三十三銀行特別顧問	種橋 潤治
四日市大学 副学長	小林 慶太郎
四日市市 危機管理統括部 部長	小松 威仁
四日市市スポーツ協会 会長	馬瀬 隆彦
四日市商工会議所女性部副会長	佐々木 薫子
特定非営利活動法人市民社会研究所 代表理事	松井 真理子
特定非営利活動法人菰野町スポーツ・文化振興会 事務局長	出口 功

《CTYFM 側》

代表取締役社長	渡部 一貴
地域情報部 部長	藤生 とも子
地域情報部 次長兼エフエム局長	諸岡 太
地域情報部 課長	金澤昌弘
地域情報部エフエム 調査役	山本 浩之

.....

【開会】

- ・事務局担当者 紹介
- ・ここから委員長進行

【報告事項】

事務局から近況報告

局概要 ・2025年度の放送番組について

※ 事項書 資料参照

← 質問等なし

【番組審議】

「知って得する福祉の話」（29分）

（番組説明）

「福祉」や「介護」についてわかりやすく解説することで、リスナーが困った時にスムーズに問題解決できるようにお手伝いする福祉情報番組。また福祉の仕事にも興味を持ってもらうことで福祉の現場で働きたい人が増えることも目指す。

金銭面だけでなく、時間や精神面でも「お得」になる情報を心がけて伝える。

《放送日時》 木曜日 12:00～12:29 日曜日 20:00～20:29(再放送)

（事前に聴いた音源からの所感を各委員が発言）

■委員

- ・介護することが苦しい事でないように感じられたが、自分の母が車いすを使用していたので、それと役立つ話題が盛り込まれよかった。
- ・話題によっては笑って話すべきでないと感じる場面があり違和感が残った。

■委員

- ・身近でも介護者が最近多いなと感じている中で、もっと情報提供してほしい番組と感じた。
- 話された事例がハッとさせられるものがあり、さらに身近だと感じる事例・知識を教えて欲しい。
- ・ラジオは「ながら」で聴けるところもメリットと感じた。

■委員

- ・これから介護に携わる方々にぜひ聴いてもらいたい。
- ・年末年始での困り事の事例が役に立つと思った。
- ・重い話題であるのに終始笑って会話していて大事なポイントが入ってこない感があった。

■委員

- ・自分が健康でいたいので、参考にさせてもらった

■委員

- ・自分がまさに両親が老々介護で、その時の骨折トラブルをこの番組を聴いて思い出した。

- ・長い年末年始の休業期間に欲しい内容だと感じた。緊急事態時の対応方法の紹介はよかった。
- ・話題はケアマネがついているケースでの対応事例だったが、本当に介護知識のないリスナーには難しいと感じたので、痒い所に手が届かず惜しく感じた。そうした方々の不安払拭を図る質向上を期待する。

■委員

- ・インフルエンザが流行るなどの年末年始のタイミングを前想定した「よいタイミング」のテーマだった。
- ・ラジオは「ながらリスナー」が多いので、主語が抜け落ちたトークや登場人物が多いなどの事例が、聴いて伝わりにくいと感じた。もう少し、話題構成を事前整理して収録を開始してほしい。
- ・二人とも女性なので、声がかぶって 話し手・聞き手が混同してしまった。

■委員

- ・情報の価値を考えると、会話が軽すぎる・笑すぎる。 耳障りに感じる面もあり、メリハリがないことが惜しく感じた。

■事務局

- ・委員皆さまの意見を参考にする。局の立場からクライアントであることを意識して、はっきり言えない事も指摘いただけた。審議会でも意見というチカラをお借りして制作者に伝えより有益な番組づくりを心掛けたい。

■委員

- ・今後制作の番組でも、クライアントに言いづらいものは、審議会でも取り上げて欲しい。

【閉会】

事務局 第4回審議会を3月書面開催で確認。

以上